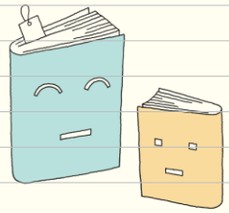
国語教育相談室

中学校

NO.49

特集 **新版教科書を生かして使う**



新版教科書のここに注目してください

Q&A 小学校では、どんな国語学習を経験してきたのですか？

巻頭エッセイ **阿久 悠** 言葉と向き合う

「今どきの言葉」図鑑 森山卓郎

寄稿 **文芸編集者から見た小説の楽しみ方**

連載 **安居總子の国語教室**

連載 **書写** 新しい書写実践の試み 日常化を目ざした行書の実践

書写が目ざすもの 行書のQ&A

光村図書

中学校　国語教育相談室　通巻No.108　定価126円（税込）

2006（平成18）年4月5日発行

発行人=常田　寛

発行所=光村図書出版株式会社

〒141-8675　東京都品川区上大崎2-19-9

電話03-3493-2111

http://www.mitsumura-tosho.co.jp

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所=村田印刷工業株式会社

デザイン=秋葉 幹司

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。

http://www.mitsumura-tosho.co.jp

広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

光村図書

Contents

「今どきの言葉」図鑑 1　よさげ …… 森山卓郎

巻頭エッセイ　言葉と向き合う
2　言葉は偉大である …… 阿久　悠

特集　新版教科書を生かして使う

4　新版教科書のここに注目してください
12　Q＆A　小学校では、どんな国語学習を経験してきたのですか？
16　実践報告　こんな指導計画の立て方がある …… 新しい指導を考える会
　実践事例 ❶「自分史を作ろう」（3年）
　実践事例 ❷「人物紹介パンフレットを作ろう」（2年）

寄稿
23　文芸編集者から見た小説の楽しみ方 …… 久米　勲

連載 ― 安居總子の国語教室 12
26　中学校の授業開き …… 安居總子

お知らせ
28　光村「国語デジタル教科書」中学校版のご紹介

豊かな書写指導のために

連載 ― 新しい書写実践の試み 1
30　日常化を目ざした行書の実践 …… 新しい指導を考える会

連載 ― 書写が目ざすもの 16
34　行書のQ＆A　その６ …… 宮澤正明

38　平成18年度版中学校「国語」漢字指導移行資料

39　編集後記

「今どきの言葉」図鑑 1

京都教育大学教授
森山（もりやま）　卓郎（たくろう）

よさげ

「よさそう」にほぼ同じ。「こんどの担任の先生、なかなかよさげ」「この参考書、よさげ」などと使う。接尾辞の「げ」が形容詞に付く場合は、語幹に「たのし＋げ」「心地よ＋げ」のようにくっつくが、「よげ」ではなく、「さ」が入る。これは「よ＋さ＋そう」の、外面からの印象を表す「そう」の部分を、同じく外面からの印象を表す接尾辞「げ」にそのまま置き換えたことによると思われる。

ただし、「×さむさげ」「×やさしさげ」そして「×わるさげ」などは使われず、「よさげ」だけしかないようだ。「よい」というプラス方向での基本的な評価が問題となるからだろう。第一印象での好印象を表す表現で、そのための特別な言葉と言えなくもない。

春は卒業と進学進級の時。春待つある日の午後、何かと指導上の問題点が指摘されてきたある生徒がぽつりと「おれ、春から変われるかな」といっていたという。いい言葉だ。みんな切ないほどに向上心と希望とを持っている。なかなかストレートに、出しにくくても、春待つ芽のように、それははじけんばかりに膨らんでいる。その思いを支えてくれそうな春風のような先生が「よさげ」ということになるのだろう。「よさげ」という言葉の響きに、いい出会いができたというよろこびを感じる。春、出会いの季節である。

さて、新しい連載。いささかでも「よさげ」であればと祈りつつ――。

言葉は偉大である

作詞家・作家
阿久（あく）悠（ゆう）

言葉が稀薄になったと誰もが言う。言い始めてから、もうずいぶんになる。言葉の稀薄さを社会や人間の危機として捉えていながら、一向に誰も改善のために努めず、稀薄なことが傾向として定着した。これは由々しき問題なのである。

ぼくは、文章を書くことが天職だと思っているので、言葉の価値の下落が何よりも無念だし、あってはならないことだと思っている。大仰に言うと、日本が壊れる。

言葉は最少必要限、使い勝手がいい程度にあればいいのではなく、一つの言葉が大きな想像世界の扉を開く鍵になってほしいと思っている。言葉は言葉であって、さらに言葉の枠では納まらない万能の力を有するものなのである。

かつて、言葉は豊かだった。心という未知のものにも触れられたし、宇宙を駆けることも可能であった。言葉が豊かということは、伝えたい気持ちが強く、わからせたい誠意に満ち、懸命に想いを魅力的に磨きながら、唇にのせることである。そして、心をトントンと叩いた。

トントンと叩くと、トントンと響く。それが最低の条件で、実はトントンと叩いた人は、キンキンと響いたり、ビンビンと弾んだりして貰いたいと、思っているものである。

それが人と人との会話で、叩き合い響き合いが連続している間に、何とも豊かな想像世界、あるいは創造世界が構築され、人々は自分の発した言葉の力に感動したのである。

それがいつの頃からであろうか、会話が連鎖状態にならなくなったのである。人々は言葉を、その時点で必要な伝達記号としか思わなくなったから、自分の都合は伝えるが、その都合に対して相手が、好感を抱いたか、当惑を覚えたかさえ考えなくなったのである。

これは会話とは言わない。二人の人間が交互に発信しているだけで、受信後の反応を何ら期待していない。ましてや、かつてのように、会話とは二人以上の人間が誠意で創造してゆく、芸術の一種であるなどとはとても思えないのである。

こんな光景をよく見かける。二人で話している。AがBにまず話す。本来ならその時、BはAの言葉を理解しようと目を見つめ、AはBの反応を見落とすまいと、表情の動きの一つまで探るものである。

ところが、昨今では、Aの話しかけにBが反応するのではなく、Aの話の途中でBは既に、自分の都合を頭の中で考えている。つまり、相手の話は聞いていない。単にテニスのサーブのように、話す権利を与えただけなのである。

何でもないありふれた光景だが、ありふれているだけに不気味で恐く、今の日本の社会のすべてが、交互の発言を無感動に行うだけの、一見会話風の言葉の無駄打ちで成立しているものだと言えるのである。

言葉は自分のためにだけあって、相手の心や存在を気遣うものでなくなった。一体、いつ、誰が、何のために、このような自分語の妄信を定着させてしまったのだろうか。こういう状態だから、悲しいかな、言葉はどんどん痩せていってしまっている。もう言葉は、飛ぶことも走ることも出来なくなり、息たえだえなのだ。

日常に言葉がなくなると、日常に慣らされて小説や歌からも言葉がなくなる。特に歌に顕著である。ぼくは作詞家で作家であるから、特にそのことをヒリヒリと感じる。

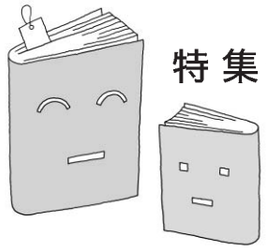
ましてや歌の黄金時代といわれた七〇年代、八〇年代に、膨大な数の歌を奔放に発信し、その躍動を見つめつづけてきたから、痩せて時代を泳げなくなった言葉や歌が悲しいのである。

言葉は便法でもなく、ましてや記号でもなく、一つの言葉で世界を想像させる催眠のキイであり、その言葉で社会に色を着けたり、風を吹かしたりする、超現実の妖怪の役目さえ背負っているのである。たかが言葉、しょせん歌で片づく小者ではないのである。

今の歌に言葉がないわけではない。ある。あり過ぎて、饒舌でさえある。それなのに、豊かでも、パワフルでもないのは、言葉がすべて自分の都合であり、他人のため、他人を動かそうとする誠意や謙虚さと無縁だからである。自分、自分、自分、何から何まで自分のためで、自分のシンパにだけは、彼らの言葉は隠語のように気持ちよく伝わる。ただ、日本という社会が細分化されたシンパへの隠語で成立しては困るのである。もう半分以上がそうなっている。

言葉をたくさん持っていると、自分の想いが正確に伝えられる。言葉をたくさん知っていると、相手の気持ちをやさしく理解出来る。これは数年前、「課外授業　ようこそ先輩」というテレビ番組で、小学六年生に贈ったメッセージの一部である。

阿久 悠（あく ゆう）
1937年 兵庫県淡路島生まれ。
尾崎紀世彦「また逢う日まで」、ピンクレディー「UFO」など、これまでに作詞を手がけた曲は5000曲以上におよぶヒットメーカー。映画化された「瀬戸内少年野球団」など、多数の著作がある。1999年紫綬褒章を受章。



特集― 新版教科書を生かして使う

新しい学年のスタートです。
新学期号の特集には、４月からお使いいただく
新版教科書を取り上げました。

新版教科書の ここに注目してください

光村図書出版国語編集部

Ⅰ 編集の基本方針

新しい国語教科書を、開いていただけましたか。これまでと違って大きな判型になったこと、本編の後ろに「学習を広げる」という資料が付いたことなど、手にとっただけで、「新しくなったな」と気づかれる点も多くあるでしょう。

二十一世紀に生きる生徒たちが、国語に興味と関心をもち、自ら見通しをもって学習に取り組むことができるよう、新しい教科書は、特に次の点に留意して編集しました。

1 言葉の力をはぐくむ教科書

国語科の学習を通して、生徒自身が自分の中に言葉を蓄え、また蓄えられた言葉を駆使して、自らの体験や必要な情報を正確に理解する能力を育成することを目ざしました。

2 生きる力を見据えた教科書

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの、また相互の学習の中で、国語に対する認識が深まり、豊かな表現力・思考力・想像力・言語感覚が身につき、それらの力が生活の中でも生きて働くように配慮しました。

3 基礎・基本が身につく教科書

言葉の力を実感し、自覚化できるような教材・学習活動・課題・資料を用意することで、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の基礎・基本が、生徒の必要性に基づいて身につくように工夫しました。

4「伝え合う」力を高める教科書

生徒一人一人が感じたこと、考えたことを自分の言葉で積極的に表現し、「伝え合う」ことを通して自分の考えを深めたり、自他の違いを認識したりしながら、協同して学習することの意義を得られるように配慮しました。

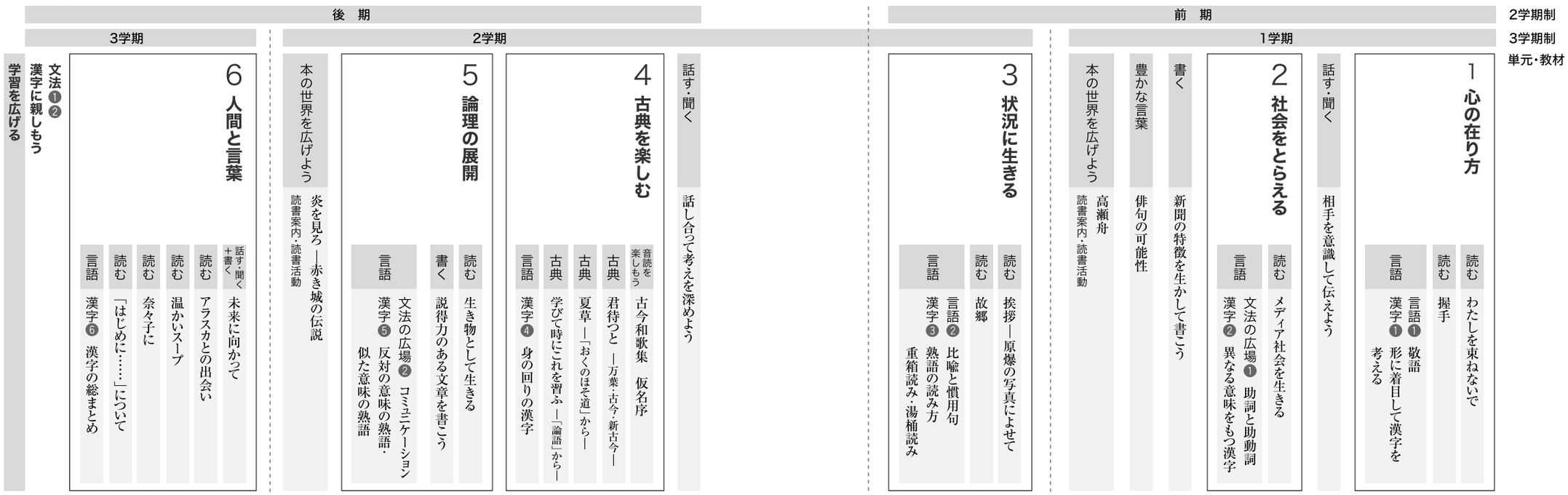
5 生徒が自らの力で取り組む教科書

生徒が、自らの課題を発見し、自ら考え、自ら解決できるように、それぞれの教材の学習目標・学習活動の流れをわかりやすく示しました。また、学習の中で身につけた力を生徒自身が確認できるように工夫しました。

6 生徒の個性が生きる教科書

多様な教材を用意し、生徒一人一人が個性を生かして学習に臨んでいくことで、自然に心の豊かさや言葉の豊かさについて考え、気づき、学習することの喜びや達成感を得られるように工夫しました。

●3年生を例に



II　単元・教材の配列と取り扱い

新しい教科書では、単元・教材のねらいを焦点化し、系統的に学習できる単元構成にしました。また、単元内の教材は、独立した取り扱いが可能です。地域や学校の実情に合わせて、自由に組み替えることができます。

1　領域の取り扱い

各学年とも、一学期（前期）は一領域単元・教材で構成し、基礎・基本の力が効果的に身につくよう、領域の焦点化を図りました。これに対して、二・三学期（後期）は、「読むこと」から「書くこと」につながる二領域単元を軸に構成しました。学校独自の指導計画に準じて、単元内の領域を切り離して取り扱うことも可能です。

2　二学期制への対応

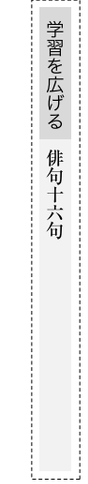
二学期制を導入している学校にも対応できるよう、前期・後期の区切りによって、学習の流れが途切れないよう配慮しました。前期が修了する時期に合わせて、単元・教材の時数を設定しています。前期終了が九月末なら第三単元まで、十月中旬なら次の「話すこと・聞くこと」教材までが前期の学習内容になります。

3　教材の取り扱い

生徒の実情や学習の目的に合わせて、弾力的に取り扱えるようにしました。単元内の一教材を切り離して扱ったり、別の単元の教材と組み合わせて、オリジナルの単元を作ったりすることもできます。

教材の組み替え例①　**独立した二教材を一体的に扱う。**

教材の組み替え例②　**教材内の⬇マークを活用して広げる。**



教材の組み替え例③　**単元内の教材を切り離して利用する。**

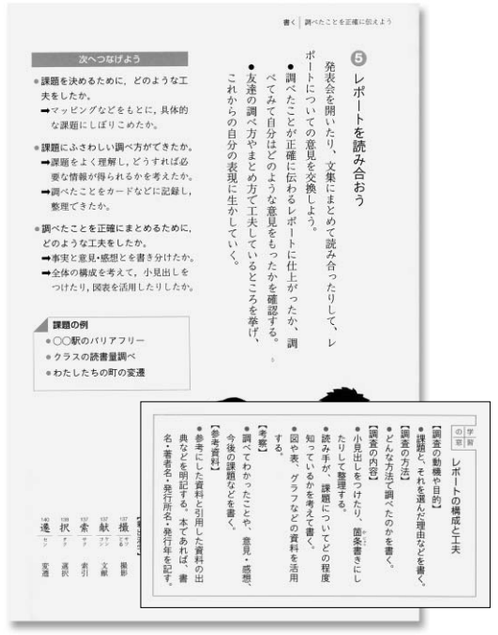
4　単元の取り扱い

一年は十二時間程度、二・三年は十時間程度と、一単元あたりの配当時数をほぼ同じ長さに設定しました。学校独自の指導計画に合わせて、単元の順番を入れ替えることができます。二～六時間扱いの独立した教材と組み合わせることで、細かい時間調整も可能です。

また、従来の目次に加えて、各学年の教科書冒頭に「領域別目次」を設けました。各領域の活動内容を見通し、単元・教材を組み替える際に活用してください。

▲ 本の世界を広げよう

▲ 学習



▲ 次へつなげよう　▲ 学習の窓

▲ 目標　▲ 学習の見通しをもとう

III　話すこと・聞くこと／書くこと

題名と副題で、活動内容と形式をはっきり示すと同時に、そこでのねらいと、具体的な活動の流れが一目でわかるよう、教材紙面を工夫しました。

1　目標・学習の見通しをもとう

教材の最初のページに、「目標」と「学習の見通しをもとう」を置きました。「目標」は、そこで何を学ぶのかを生徒に見える形で示したものです。「学習の見通しをもとう」は、そこでの学習の流れを四つのステップに沿って示したものです。これらは、すべての「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に共通するステップとして提示しています。

2　学習の窓

何に注意して伝え合うか、どのような手順で活動に取り組むかなど、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習のポイントを具体的に示したのが、「学習の窓」です。巻末の「学習を広げる」には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の「学習の窓」を一覧にまとめた「伝え合うために」を設けました。

3　次へつなげよう

教材末の「次へつなげよう」に、そこでの学習の振り返りとして、自己評価の観点を示しました。活動したまま終わるのではなく、何ができたか、次はどこを工夫するかなど、成果や課題を確認することで、次の学習や日常の言語生活に生かしていくことをねらっています。

IV　読むこと

幅広い分野から、魅力あふれる作品・文章を厳選しました。同時に、学習を焦点化し、「読むこと」の力を確実に定着させる課題を用意しました。

1　学習

教材にある「学習」のページには、「目標」「新出漢字」と教材の特性に合わせて、「言葉」「学習の窓」を置きました。「目標」は、教材の内容的価値をとらえる目標と、内容を的確に読み解くための目標との、二種類に分けて示しました。「学習の窓」は、他の領域と同様、「読むこと」の力を系統的に身につけるために位置づけました。

2　古典

音読や暗唱のきっかけとなるよう、作品の冒頭部分を提出し、一・二年教材の本文には、歴史的仮名遣いに読みのための振り仮名をつけました。また、生徒にとって、古典学習がより楽しく有意義なものとなるよう、視覚的効果を考えて紙面を構成しました。

3　本の世界を広げよう

読書教材として、夏休み前には文学を、冬休み前には説明文を位置づけました。教材の内容と関連する「読書案内」のほかに、読書の記録を残したり、必要な情報を手に入れたりするための「読書活動」を位置づけました。より多くの本に親しめるよう、巻末「本との出会い」では、三学年共通で百冊の本を紹介しています。

V　言葉

普段、何気なく使っている言葉の奥深さを知り、興味をもてるように、教材化を図りました。事例についても、日常の場面を想定した、身近なものを挙げました。

1　文法

新しい教科書では、教材の提示方法を一新しました。一・二年は三箇所、三年は二箇所に、「文法の広場」を配置し、本編の最後に、具体的な解説である「文法」を一括して示しました。「文法の広場」は生徒が言葉のきまりに気づくきっかけとして、また、「文法」は実際の学習の場として、それぞれの役割をはっきりと分けました。

2　言語

各学年二箇所に、「言語」を位置づけ、中学生に必要な言葉の知識を精選して示しました。身近な言葉や表現に着目するきっかけをそれぞれの教材の導入部分に置き、わかりやすく解説すると同時に、理解を助ける資料やイラストを豊富に取り入れました。

3　漢字

新出漢字は、「読むこと」の教材と「漢字」を中心に提出し、本来の学習の目的を妨げないよう、「話すこと・聞くこと」や「文法」教材などには、提出していません。また、「小学校六年生で学習した漢字」「常用漢字表・常用漢字表　付表」を、全学年の付録に入れました。小学校六年生の漢字を書く場として、全学年の本編に「漢字に親しもう」を設けました。

VI　学習を広げる

本編の学習を支える学習ツールとしての資料を巻末にまとめました。国語だけでなく、「総合的な学習の時間」や日常の言語生活にも生かせます。

1　資料

本編の学習を支える資料として、教材内に⬇マークで関連を示しました。資料として位置づけたものには、配当時数や新出漢字がなく、いつでも活用することができます。生徒の主体的な活動を助ける資料として、話し合いの方法やメモの取り方、辞書の活用方法などを示しました。「読むこと」の資料として位置づけた作品・文章は、本編の教材と入れ替えて扱うこともできます。

2　発展

学習指導要領の一部改正（平成十五年十二月）により、新しく取り入れられた「発展的な学習内容」に当たるものです。すべての生徒が一律に学習する必要はありませんが、自主学習などに使えるよう、新しい教科書では「日本文学の流れ」と「近・現代文学展望」、「文語の活用」の三項目を示しました。

3　付録

それぞれの学年で学習した漢字の一覧と「常用漢字表・常用漢字表　付表」「小学校六年生で学習した漢字」のほかに、「学習のための用語一覧」を置き、その学年で登場した主な用語を五十音順にまとめました。

VII　そのほかの工夫点

中学校の三年間に、できるだけたくさんの言葉と出会ってほしい。自ら学ぼうとする気持ちを応援したい。そんな思いから、生徒をサポートするいくつもの工夫や機能を盛り込みました。

1　単元とびら

各単元のとびらに「言葉を楽しむ」を設けました。「花便り・麦秋・花野・紅葉」など、身近な自然や生活に息づく美しい言葉の存在に気づき、興味をもつきっかけになってほしいと願いました。

2　各種マーク

教材に関連のあるページを⬇マークで示し、適宜参照できるようにしました。本編のほかの教材や、「学習を広げる」につながっています。このほかにも、学習を支えるものとして、さまざまなマークが登場します。

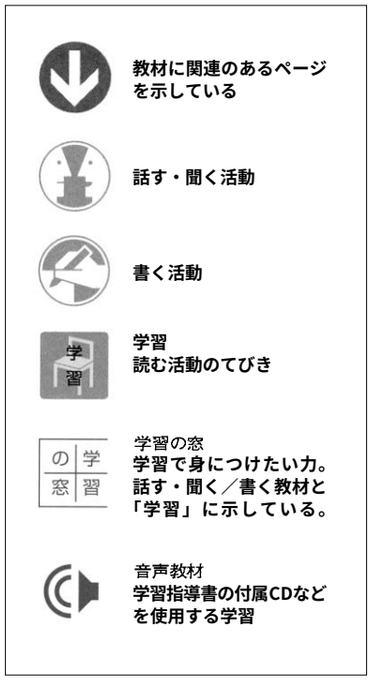
3　学習の計画を立てよう

各学年の目次の後ろに、一年間の学習活動を一覧にしました。生徒自身が見通しをもち、主体的に学習できるように配慮しました。学習内容、目標のほか、「学習の窓」、「学習を広げる」との関連も示しています。

4　伝え合うために

「話す・聞く」「書く」領域の「学習の窓」と「学習を広げる」の項目を、活動の展開に沿って示しました。一年間の学習項目を見通し、自己評価する場としても活用できます。

▲ 単元とびら「言葉を楽しむ」



◀ 学習を支えるマーク

QUESTION & ANSWER

小学校では、
どんな国語学習を経験してきたのですか？

生徒たちは、小学校の6年間でどんな国語学習を経験してきたのでしょう。
光村図書の教科書を例に、先生たちの疑問にお答えします。

Q1　小学校の国語学習と中学校の国語学習の違いを、どうとらえればいいのでしょう。

A1　小学校学習指導要領では、低学年・中学年・高学年の三つに分けて「各学年の目標、内容及び言語活動例」が示されています。これらは、系統的・段階的に高められていますが、同時に螺旋的・反復的に繰り返しの学習を基本としています。中学校と小学校の関係も同様で、生徒は、中学校での学習のより基本的な内容を、小学校の段階に経験しています。中学校での国語学習は、小学校で行った学習を、より広げ、深めるものと考えていいでしょう。

Q2　「話すこと・聞くこと」の学習では、どんなことを経験しているのでしょう。

A2　言語活動例として取り上げられているのは、「低学年＝尋ねたり応答したりすること、友達の話を聞くこと、読んだ本の中で興味をもったところなどを紹介することなど」、「中学年＝身近な話題についてスピーチすること、要点などをメモに取りながら聞くこと、身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすることなど」、「高学年＝自分の考えを資料を提示しながらスピーチすること、目的意識をもって友達の考えを聞くこと、調べた事やまとめた事を話し合うことなど」という内容です。光村図書の教科書を例に取ると、高学年では、インタビューや学級討論会、資料を見せながらの発表なども経験しています。

Q3　「書くこと」の学習では、どんなことを経験しているのでしょう。

A3　言語活動例として取り上げられているのは、「低学年＝絵に言葉を入れること、伝えたい事を簡単な手紙などに書くこと、先生や身近な人などに尋ねた事をまとめること、観察した事を文などに表すことなど」、「中学年＝手紙を書くこと、自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること、経験した事を記録文や学級新聞に表すことなど」、「高学年＝礼状や依頼状などの手紙を書くこと、自分の課題について調べてまとまった文章に表すこと、経験した事をまとまった記録や報告にすることなど」という内容です。光村図書の教科書には、新聞、グラフ・表を用いた報告文、レポートのほかに、ガイドブックづくりや放送原稿を書く活動なども位置づけています。また、物語や詩を創作する活動も、各学年で体験しています。

Q4　「読むこと」の学習では、どんなことを経験しているのでしょう。

A4　言語活動例として取り上げられているのは、「低学年＝昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと、絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと、自分の読みたい本を探して読むこと」、「中学年＝読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど」、「高学年＝読書発表会を行うこと、自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むことなど」という内容です。ただ、小学校で学習する内容の中に、「主題」「朗読」という言葉は登場しません。これらは、中学校に入って初めて経験することになります。また、文語調の文章については、あくまでもこれに触れることを目的として、高学年で、短歌と俳句、文語詩を読む学習を経験します。光村図書の教科書では、六年生に狂言も登場します。

Q5　読書指導や図書館の利用指導、また情報収集・活用指導について、小学校ではどのように行われているのでしょう。

A5　これらの内容は、小学校でも重視されており、国語の時間の中で繰り返し学習しています。光村図書の教科書では、全学年に読書単元を位置づけ、さまざまなジャンルの本に親しむと同時に、本を探すための図書館利用の方法を紹介しています(本の並べ方、目次、索引の利用など)。また、情報収集・活用の場として、三年生以上に、情報活用単元を位置づけています。ある文章をきっかけに、自分の興味・関心に応じて課題を見つけ、文章にまとめたり発表したりすることをねらいとした単元です。情報活用の方法として、中学年では、図鑑など本で調べることやインタビュー、高学年では、インターネットの活用なども扱っています。

●小学校国語教科書「読むこと」主な教材一覧（光村図書を例に）

	童話・民話・物語・詩		説明文	
	教材名	作 者	教材名	作 者
1年	はなのみち	岡信子	いろいろなくちばし	村田浩一
	あいうえおで あそぼう（詩）	中川ひろたか	じどう車くらべ	
	おむすびころりん	羽曽部忠	どうぶつの 赤ちゃん	増井光子
	大きなかぶ	西郷竹彦		
	くじらぐも	中川李枝子		
	ずうっと，ずっと，大すきだよ	ハンス＝ウイルヘルム 久山太市訳		
	あめふり くまのこ（詩）	鶴見正夫		
	たぬきの糸車	岸なみ		
2年	ふきのとう	工藤直子	たんぽぽのちえ	植村利夫
	スイミー	レオ＝レオニ 谷川俊太郎訳	サンゴの海の生きものたち	本川達雄
	おおきくなあれ（詩）	阪田寛夫	一本の木	岩崎清
	黄色いバケツ	森山京		
	お手紙	アーノルド＝ローベル 三木卓訳		
	いるか（詩）	谷川俊太郎		
	スーホの白い馬	大塚勇三		
3年	きつつきの商売	林原玉枝	ありの行列	大滝哲也
	わたしと小鳥とすずと（詩）	金子みすゞ	すがたをかえる大豆	国分牧衛
	三年とうげ	李錦玉		
	キリン（詩）	まど・みちお		
	聞き耳ずきん	上笙一郎		
	ちいちゃんのかげおくり	あまんきみこ		
	モチモチの木	斎藤隆介		
4年	三つのお願い	ルシール＝クリフトン 金原瑞人訳	「かむ」ことの力	金田洌
	春のうた（詩）	草野心平	手と心で読む	大島健甫
	白いぼうし	あまんきみこ	アップとルーズで伝える	中谷日出
	ぼく（詩）	木村信子		
	いろはにほへと	今江祥智		
	一つの花	今西祐行		
	ごんぎつね	新美南吉		
5年	新しい友達	石井睦美	サクラソウとトラマルハナバチ	鷲谷いづみ
	晴間（詩）	三木露風	千年の釘にいどむ	内藤誠吾
	海雀（詩）	北原白秋	ごみ問題ってなあに	嘉田由紀子
	雪（詩）	三好達治	ニュース番組作りの現場から	清水建宇
	未確認飛行物体（詩）	入沢康夫		
	わらぐつの中の神様	杉みき子		
	ねぎぼうず（詩）	みずかみかずよ		
	ケムシ・――（詩）	まど・みちお		
	耳（詩）	ジャン＝コクトー 堀口大学訳		
	蝶（詩）	ジュール＝ルナール 岸田国士訳		
	月夜のみみずく	ジェイン＝ヨーレン 工藤直子訳		
	大造じいさんとガン	椋鳩十		
6年	カレーライス	重松清	生き物はつながりの中に	中村桂子
	森へ	星野道夫	多くの人が使えるように	古瀬敏
	船（詩）	山之口貘	平和のとりでを築く	大牟田稔
	りんご（詩）	山村暮鳥		
	柿山伏（狂言）	山本東次郎		
	やまなし	宮沢賢治		
	海の命	立松和平		
	今，君たちに伝えたいこと	小澤征爾		
	生きる（詩）	谷川俊太郎		

Q6　国語辞典や漢字辞典の使い方は、どのように指導されているのでしょう。

A6　国語辞典の使い方は三年生で、漢字辞典の使い方は四年生で学習します。光村図書の教科書では、いずれも辞典のページを具体的に図示したうえで、国語辞典では語の配列のしかたや活用について、漢字辞典では音訓引き・部首引き・総画引きなどについてそれぞれ解説し、練習するようになっています。五・六年生では、その応用として、漢字の成り立ちを調べたり、部首を確かめたりするなど、実際に辞典を使う活動を複数位置づけています。

Q7　小学校では、漢字指導はどのように行われているのでしょう。

A7　小学校では、中学校とは違って、学習指導要領のうえで、学年別配当漢字が定められています。つまり、学年によって指導すべき漢字の字種と字数が決まっているのです。また、学習指導要領では、漢字は二年間かけて指導することになっています。例えば、六年生では六年生配当漢字を「読む」、また、「漸次書くようにする」とともに、五年生までの漢字を「書き、文章の中で使う」という指導がされます。ですから、六年生の配当漢字一八一字を「書き、文章の中で使う」指導は、中学校に任されることになります。

Q8　小学校で学習する国語科用語の大体を教えてください。

A8　算数・数学のように、学習指導要領で用語が決められているわけではないので、あくまでも光村図書の教科書を例にしてということになりますが、以下のような語は、教科書中でこれを解説し、学習上使用できるようにしています。

- 主語・述語・修飾語・接続語、こそあど言葉
- 場面、登場人物、心情、情景、会話、地の文、段落、要旨、構成
- 敬語（丁寧語、謙譲語、尊敬語）、方言、共通語
- へん・つくり、送り仮名、和語・漢語・外来語、複合語
- 短歌、俳句、文語

実践事例❶

「総合的な学習の時間」と関連させた単元を創造する

「自分史を作ろう」（3年）

1　国語科の授業と「総合的な学習の時間」との関連

国語科教師として「総合的な学習の時間」の指導計画立案に携わったとき、その学習を組織する発想が、国語科の単元を創造する過程とよく似ていることに気づく。

どちらも、「学び手の興味・関心・必要に根ざす話題をめぐって組織されるひとまとまりの価値ある活動」を通して、力を身につけさせていくことが必要になるからである。国語科とは、そのねらいに違いがあるものの、活動の主は、どちらも言語活動である。事実、他教科の教師から、「新聞の作り方」や「話し合いの組織のしかた」など、ずいぶんと質問を受けた。「もっと、国語の授業で話し合いの方法を教えておいて欲しい。」などと求められたこともある。

つまり、国語科教師は、「総合的な学習の時間」の指導計画作成やその指導に携わる部分がきわめて多いと言える。よって、国語科としての年間指導計画を立案する際には、「総合的な学習の時間」の指導計画を考慮に入れる必要が求められるのではないだろうか。

しかし、国語科が、どこまで「総合的な学習の時間」との有機的な関連を図ることができるのだろう。その関わり方は、「年間を通して」「一単元で」「各活動で」など様々である。

「年間を通して」関わる際には、「協同学習」「美しい言葉の習得」など、ある程度、学校全体の目標として大きなテーマを掲げる必要がある。そして、そのテーマを追求していくため、全職員が共通理解し、年間指導計画を立案していかなければならない。

ただ、そこまで大きく展開することができない場合でも、「単元」「各活動」レベルでの関わり方を、今後、考えていくべきではないだろうか。

ここでは、ある一つの単元を抽出し、「総合的な学習の時間」とどのように関連させていくことができるかを述べたい。中学三年生で実践することが可能な「自分史を作ろう」をテーマとした単元である。

2　単元「自分史を作ろう」

■単元設定の趣旨

自分以外の事象に対しては、客観的な見方や考え方をもち、表現することができる生徒は多い。しかし、話題の中心が自分自身となると、書けない（書かない）、話せない（話さない）生徒が多くなる。それは、これまでの生活の中で自分について自分と対話するという経験、そして、その必然に置かれる状況が乏しいからではないかと考えた。

よって、自分を取材対象とする「自分史」を作ることによって、必然的に自己との対話を生み出す機会を作ろうとしたのである。

本単元は、三年生の二学期末から三学期にかけて、実践可能なものである。卒業を目前に控えた生徒たちは、自分自身の進路と向き合い、人生の中で最初の生き方の選択をしようとしている。その大きな選択は、時には自分を励ます目標ともなるが、時には大きな壁となり、生徒の心を揺り動かす。

自分の歩んできた歴史を振り返る「自分史」は、自己との

こんな指導計画の立て方がある

新しい指導を考える会

対話によって、一つ一つの出来事の中に、多くの人との関わり合いがあることを認識させ、自分が多くの人々に支えられて成長していることに気づかせ、感謝の思いをもたせるところに価値を置く。生徒たちは取材を進める中で、自分の記憶の中に、自分を支えてきてくれた親の存在や仲間の温かさを感じ、そのかけがえのなさに気づくであろうと考えた。

■活動について

本単元では、「自分史」を、世界でたった一枚の自分だけの新聞に収める活動を構想した。新聞を作成していくという活動を通して、生徒たちには、「情報を収集する能力」「情報を取捨選択する能力」「情報を再構成する能力」を主とした、情報を操作する力を身につけさせていきたいと考えた。

一つ目の「情報を収集する能力」は、取材活動を通して身につけさせていく。本単元での取材対象は、自分自身であるので、自分のアルバムや卒業文集などをひも解くことによって、過去の自分と向き合うことができる。また、保護者へのインタビューや仲間へのインタビューによって、他の人から自分に関わる情報を収集することもできる。

次に、「情報を取捨選択する能力」は、集めた情報の中から、どれだけの出来事やその内容を、新聞という限られた紙面に記載していくかを考えることを通して、身につけさせたい。ここでは、出来事としての自分の経験や感情を、言葉として蓄積しておくことが大切となってくる。

最後に、「情報を再構成する能力」は、言葉として蓄積された情報を、新聞という形式の表現にどう置き換えていくかを考えていく過程で身につけさせていきたい。

■単元の構想

「自分史を作ろう」（全十四時間）

《単元目標》

○今までの自分の生き方を振り返り、未来に向かおうとする気持ちを自分史に書きまとめることができる。

○自分に関する情報を集め、それを材料として文章を作成していくことができる。

《学習の流れ》

【第一次】（一時間）
・一年生の教科書で学習した『少年の日の思い出』を思い起こさせ、自分自身の「少年の日の思い出」を年代ごとのカードに箇条書きで書いていく。

【第二次】（四時間）
・教科書教材『握手』を振り返る。
・教科書教材『メディア社会を生きる』を学習する。

【第三次】（二時間）
・「自分史のすすめ」を読み、自分史の書き方を理解する。
・資料収集や整理・加工など、制作の見通しをもち、学習計画を立てる。
・新聞の作り方を学ぶ。

【第四次】（五時間）
・アルバムや家族へのインタビュー、かつての作文などを材料として、自分史を書く。
・資料の活用の仕方や表現の仕方について仲間から学び、自分史に生かしていく。

【第五次】（二時間）
・書き上げた自分史を交流し合い、互いの作品を評価し合う。

学習材

○少年の日の思い出（光村1年）　○新聞の特徴を生かして書こう（光村3年）
○握手（光村3年）　○メディア社会を生きる（光村3年）　○「自分史のすすめ」（自作資料）

■「総合的な学習の時間」との関わり

本単元は、全十四時間として構想した。しかし、表に示した第三次・第四次の活動は、「総合的な学習の時間」との関連を図ることが可能となるため、国語科の授業に全十四時間をあてる必要はなくなる。

国語科と「総合的な学習の時間」相互に共通する学習内容を明確にし、関連を図ることができれば、国語科の少ない授業時数にも十分対応していくことができるのである。

①「総合的な学習の時間」と単元自体を関連させる場合

三年生の「総合的な学習の時間」を「生きる」「生命」などの大きなテーマで構想している場合には、「総合的な学習の時間」の取材活動と国語科本単元とを関連させて、第四次の「情報の整理・加工・再構成・自分史作り（新聞作り）」を「総合的な学習の時間」に行うことができる。

そうすることによって、第四次で扱う五時間は、「総合的な学習の時間」との関連によって削減され、そこで作り上げた作品を、表に示した第五次に、国語科の授業として交流させていくことができる。

②「総合的な学習の時間」と活動を関連させる場合

三年生が個人課題追求を行い、そのまとめ、発信の手段として新聞作りという活動を行わせる場合、第三次において、この関連を図ることができる。

国語科では、「新聞作り」のための学習の手引きを作成する。その手引きを「総合的な学習の時間」を指導する教師に活用してもらい、そこで学んだことを国語科の授業で生かしていく。また、第三次の「資料収集の仕方や整理・加工の仕方」は、「総合的な学習の時間」で指導することが可能なため、国語科の授業で学習の重複を避けることもできる。さらに、その逆の発想を用いれば、国語科で指導したことを、「総合的な学習の時間」で生かすこともできる。

③教材・学習材の共有

国語科の単元で作り上げた作品、「総合的な学習の時間」で作り上げた作品は、相互に生徒のための学習材としても共有することができる。時間的な関連だけではなく、学習材の関連も考えられるのである。

本単元のように、新聞という表現方法を用いる場合、学習の手引きだけではなく、実際に生徒が授業を通して作成した作品（次ページの例）を提示すれば、より具体的に完成の姿をイメージすることができる。

生徒たちは、できるだけその作品に近づきたい、さらによい作品にしたいという学習意欲をもち、こうした積み重ねによって、学習材は年々、その質を高めていくであろう。

国語科と「総合的な学習の時間」の関わり合い方は、時間・学習内容・学習材など多岐にわたる。学習材のように、ワンポイントの「点」として関わる場合もあれば、単元を通して学習内容を関わらせ合う「線」として、そして、価値ある大きなテーマを掲げ、全校を一つのステージとして考える「面」としても、関わり合いをもつことは可能である。

「総合的な学習の時間」が導入されて五年を迎える今、新しい国語科の単元を創造する意欲を、教師一人一人が自覚したいものである。

▼「自分史新聞」生徒作品例

実践事例 ❷

国語科での学習を「総合的な学習の時間」に応用する

「人物紹介パンフレットを作ろう」(2年)

左ページの図に示したのは、教科書教材『人物紹介パンフレットを作ろう』(二年)を先行して実践し、その応用として「総合的な学習の時間」で「鎌倉遠足のための事前学習」を行った実践例である。国語科の時間に、情報の収集・整理・活用の方法を習得させた後、その指導を「総合的な学習の時間」に生かすには、どんな工夫があるかを紹介したい。

本校では、一年生の体験学習では、課題や資料は教師側で割り当てたので、自分で課題を決定したり、資料収集をしたりする方法が理解できていない学習者が多い。そこで二年生では、自ら必要な情報は何かを考え、収集・活用できる力をつけたいと考えた。

1 指導計画を立てるにあたって

年度当初に「総合的な学習の時間」の計画を見ながら、国語科と連携を図れる点は何か、どんな力をつけておく必要があるかを確認しておく。

今回の取り組みでは、国語科においても、「総合的な学習の時間」においても、目標として共通するものが多い。国語科でまず基本を身につけさせ、「総合的な学習の時間」のパンフレット作りに役立てていこうと考えた。

2 指導のための工夫点

■紹介する項目(切り口)を考えるヒント

生徒の関心・意欲を高めるために、教師が「人生を豊かにしてくれた人との出会い」というテーマで、「好きな作家」の紹介をする。その際、人物紹介の切り口となる項目――出会いのきっかけ・作家の生い立ち・自分が好きな作品・作家のエピソード・写真・名前の由来など――を理解させておく。項目立てのヒントは、「手引き」の形で与えたい。この切り口が、「総合的な学習の時間」も含めたパンフレットの項目立てに役立つ。

■自分の課題が見つからない生徒への手立て

取り組む前に忘れてはならないのが、自分の課題が見つからない生徒への手立てである。具体的な手立てとして、「課題が決まった生徒に、選んだ人物とその理由を紹介させる」「友達同士で情報交換したり、アドバイスし合ったりする機会を設ける」ことなどが考えられる。また、課題は明確ではないが、こういう人を選びたいという生徒の声を聞き、教師がアドバイスすることも必要であろう。

■PCや図書室の活用のしかた

PCで資料を探すことは、ほとんどの学習者ができるようであるが、情報は正確に記するとともに、出所を明記することを指導する。PCから取り出した資料をそのまま写すだけで、終わらないようにしたい。

また、図書室(図書館)の使い方が理解できていない場合は、本の配架場所などを教えておく。また、調べた資料からどのようにメモをとるのか。「情報カード」(P22参照)を利用して情報収集のしかたを伝えておく。

《国語科の流れ》

「人物紹介パンフレットを作ろう」
実施時期: 5月(10時間)
目 標
①目的や読み手に応じて、必要な情報を整理する。
②伝えたいことが明確に伝わるように、効果的な紙面構成を考える。

《総合的な学習の時間の流れ》

「鎌倉遠足のためのパンフレット作り」
実施時期: 6〜9月(7時間)
目 標
①テーマ学習に対する関心・意欲・態度を育てる。
②調べ学習や発表に関する技能や表現の力を養う。
③遠足地の自然・風土・産業・歴史を知る。

国語科の流れ	総合的な学習の時間の流れ
見つける・集める ❶企画を立て、情報を集める。 ・調べる人物を決める。 ・紹介する内容を考える。 ・計画を立て、情報を集める。 ※「情報カード」の記入	**見つける・集める** ❶遠足地鎌倉の「地理」「産業」「歴史」などの課題から自分の興味ある課題を選び、伝える内容(テーマ)を決める。 ❷情報を収集する―図書室、インターネット、地域の図書館、その他
深める・整理する ❷情報を整理する。 ※「情報カード」を活用 ❸紙面構成を考える。	**深める・整理する** ❸情報を整理する―自分が使える情報と、ほかの人に役立つ情報とに分ける。 ※「情報カード」の活用 ❹見やすい紙面構成を考える。レイアウトの工夫。
まとめ・伝え合う ❹下書きをし、パンフレットを作る。 ❺発表し合って感想を述べ合う。	**まとめ・伝え合う** ❺タイトルや見出しを工夫する。 ❻下書きをして友達に助言をもらう。 ❼パンフレットを完成させる。 ❽クラスで発表して感想を述べ合う。
振り返る 「総合的な学習の時間」にむけて	**振り返る** 「遠足を終えて」(ワークシート)

■情報収集を効果的に

課題を決めたり、テーマを絞ったりするときの、参考にする資料の質と量が学習の成否の決め手となる。ここで活用したのが、例に示した「情報カード」である。ある課題のもとに、全員で情報を収集して記入する場合は、自分が使う資料だけでなく、ほかの人が使えそうな情報も記入させるようにする。後でカードを見せ合うようにすると、情報の量も豊富になり、学習時間の短縮にもつながる。カードに記入するときは、必ず出典を明記させるようにする。

■タイトル・キャッチコピーの工夫

読み手を引きつける工夫として、タイトルやキャッチコピーの工夫も国語の力としてつけていきたい。「……について」のようなタイトルは、なるべく避けたい。読み手の心を引きつけるには、文末を「体言止め」「……動詞」にしたり、「擬人法」「オノマトペ」「倒置法」などの技法を用いたりする方法があることを指導する。実際にいつくかの実例で示すのが有効である。

NO.（　）　情報カード

書　名	著　者	出版社	どこにあるか
			□図書室 □図書館 □個人 □他（　）
人物（　　） □写真が多い　□内容がわかりやすい　□年表がある □魅力的な部分がある □その他			
この本のお薦めポイント（こんな事を紹介するのに役立ちそう）			
組　番　氏名			

▲情報カード

▲ 生徒作品例

文芸編集者から見た小説の楽しみ方

久米　勲

小説の楽しみ方・読み方は、一つではありません。多くの人に親しまれてきた作品、教科書に載っている作品を、こんなふうに読むこともできます。

高校時代の国語の教師の話から始めよう。

教科書の小説を声に出して読む。あるところまで読み終わると、窓の外に目をやる。空を見上げていかにもそれらしく、「いいですねえ」と呟く。それ以外一切言葉を口にしない。

生徒は、どこがどう「いい」のか、さっぱりわからない。しかし私は、そのとき、「あ、これこそ文学だ、小説だ！」と、ワクワクした。そしてこの授業が、私のその後の進路を決めたと言っても過言ではない。

それはそれとして、小説ほど融通無碍（ゆうづうむげ）なものはない。人というのは、一人として同じ人生を持つことはない。だから、作中のエピソードへの対し方も異なってくる。一つの作品の印象は、百人読めば百通りの姿をしている。どんな作品も、作者の手を離れたら、一切を読者の自由な鑑賞に委ねるしかない、ということだ。

作者はある意図をもって作品を書く。その意図を、テーマやモチーフや構成などから読み取ることはもっとも大切である。それとともに、どのように読んでいいのも、小説なのである。けれども、熟読すれば思いもよらぬ発見ができるのも、また小説だ。

「道がつづら折りになって、いよいよ天城峠（あまぎとうげ）に近づいたと思う頃、雨脚（あまあし）が杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追って来た。」

川端康成作「伊豆の踊子」の、有名な書き出しである。一人で伊豆を旅する二十歳の高校生「私」が出会った旅芸人一座の十四歳の踊子薫との、恋とは言えない淡い憧れを抒情的に描き、永遠の青春の書とし

て、今や古典となっている。

「私」と踊り子の仄かな交流として読む。これはこれで充分に美しく、心に響いてくる読み方であり、何の問題もない。しかし……。

終わり近くで、高校生「私」は、自分のことを、旅芸人たちが「いい人ね」「それはそう、いい人らしい」「ほんとにいい人ね。いい人はいい人ね」と噂しているのを聞いて述懐する。

「この物言いは単純で明け放しな響きを持っていた。感情の傾きをぽいと幼く投げ出して見せた声だった。私自身にも自分をいい人だと素直に感じることが出来た。晴れ晴れと眼を上げて明るい山々を眺めた。瞼の裏が微かに痛んだ。二十歳の私は自分の性質が孤児根性で歪んでいると厳しい反省を重ね、その息苦しい憂鬱に堪え切れないで伊豆の旅に出て来ているのだった。だから、世間尋常の意味で自分がいい人に見えることは、言いようなく有難いのだった。」

実に然り気なく書いてあるので、「私」と踊子との話に紛れてしまい、ついつい見過ごしてしまいがちな文章だ。だが、これがあることによって、この作品はただの恋物語では終わらないことになる。読者に、この若者の、そして作者川端康成のこれまでの人生を考えさせ、感じさせる。そこで初めて、踊子と高校生の心の絆が切っても切れないものだったと納得出来るということだ。

こうした一文に目を止めて、その作品のある深部に目を向けるのも、一興だろう。

さて、中学校教科書定番作品と言われているらしい太宰治の「走れメロス」にうつろう。

二十年来の友の身代りに人質となった男のために、約束を違えずに様ざまな傷害を乗り越えて帰って来たメロス。友情の強さ、美しさ、約束の大切さが、まさにその最大のテーマであり、モチーフであることは疑いを入れない。

だが、それだけだろうか。結末で、お互いが、一度だけだが相手を疑ったことに対して、制裁してくれと言い、互いに殴り合う。そして、『ありがとう、友よ。』二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれし泣きにおいおい声を放って泣いた。」となると、友情以上の愛を感じてしまうのは私だけだろうか。

上田秋成の名作「雨月物語」中の「菊花の約（ちぎり）」と同じ男同士の愛を。

そういう視点から、もう一度「走れメロス」を読み返してみると、全体の様相が変わってくる。メロスとセリヌンティウスの関係が、これまでと違った形で姿をあらわしてくるのではなかろうか。

最後に、芥川龍之介の「トロッコ」を取り上げたい。

今も中学校教科書に載っているそうだが、私も中学生時代に教科書で読んだ。昭和三十年当時の教科書には、結末部分の校正者となった良平の感懐は掲載されていなかった。家に帰りついて泣く良平、という場面で終わる、単純な作品にしてしまっていたという訳だ。当時の編集者は、中学生向きであるなら、この結末部を削ったほうがわかりやすいと考えたのだろう。

だが、このような改変は、文学作品に対する大きな冒瀆である。作者である芥川が、校正者という職業に就いた良平の、八歳の時の事件とはまるで関係ない現在の心裡を結末に据えた意味を全く考えていない、思い上がった振舞だ。しかし、私の習った教師は、この後ろに結末部があるのだということは、教えてくれていた。それは大変に意義ある教示だったと思う。

「全然なんの理由もないのに、そのときの彼を思い出すことがある。全然なんの理由もないのに？――塵労に疲れた彼の前には今でもやはりそのときのように、薄暗いやぶや坂のある道が、細々と一筋断続している。……」

一人で帰る心細さと恐怖と悲しさが頂点に達した時、ようやく辿りついた家の玄関。そこで母にすがってワッと泣き出した良平。その描写のすぐあとに、大人となった良平のどこか淋し気な現在を示して、フッとはぐらかすように終わる。その芥川の意図を、子供たちは理解できないかもしれないが、作者の書いたとおりに呈示することが、非常に意味のあることなのだ。冒頭に紹介した私の高校の教師の姿と、これは繋がってくると思うのだが。

これらは単に、私の勝手な読み方にしかすぎない。言葉の世界に遊んだり、あるいは人それぞれ、自分に引きつけて読むことだってできる。そう、小説ほど融通無碍なものはないのだから。

毎日の授業や生徒との接し方に悩む若い先生たち、こんな小さなきっかけから生徒が変わります。

中学校の授業開き

四月は授業開きの季節です。とりわけ、小学校から迎え入れる一年生のキッド・ウォッチングは欠かせません。学級担任制で、どちらかというと総合的に学習が進められ、育てられてきた子どもたちの個々の育ち方・学力・国語力を把握することは、教科担任制をとっている中学校の国語科教師がまずやらねばならぬことです。学習指導要領や小学校の教科書を見ることで、どのような言語活動をし、どのような言語経験を積んで言葉の力が育てられたかを、知ることができます（本誌P12参照）。けれども、それは子どもの実態ではありません。「こうやってきたから。」「こういう力がついたはず。」は通用しません。素直に子どもの姿をとらえ、そこから中学校の学習をスムーズに、しかも力強くスタートさせたいものです。

1 「授業開き」単元

「授業開き」の単元は、次のような趣旨のもとに計画し、展開します。目標は、

(1 学習者の学力の診断的評価をする。

(2 中学校の国語学習に必要な、基本的な力をつける。

の二点です。(1は、小学校で育てられたはずの学力を診断することです。(2は、小学校で育てられたはずなのに身につかなかった言語活動（聞く、話す・聞く、書く、読む）の力を、一人一人確かめながら訓練して身につけさせることです。そして、中学生として必要な基本的な言語活動力を、合わせて訓練していきます。

方法として、次の三つが考えられます。

① 教科書の第一単元を中心に組み立てる。

② 独自の「授業開き」単元を創設する。

③ ①②を組み合わせ、学校の「総合的な学習の時間」とかかわらせて行う。

期間は、学校全体のカリキュラムとも関係しますが、四月の十時間、四～五月の二十時間あたりが目安でしょう。さしあたって、本格的な単元に入るまでにつけておかなければならない力や、言語経験をさせることが目標となります。十時間とか二十時間の授業時数は、学習者の人数によるものと考えてください。

2 学習診断・学習訓練のための言語活動

「授業開き」の単元で大切なのは、学力を診断したり訓練して身につけさせたりする言語活動を、どのように設けて実施していくかです。

〈学習活動をスムーズに行うために必要な言語活動〉

A 聞く
- だまる（聞く態度づくり）。
- 話し手のほうを向いて（目を見て）聞く。
- 最後まで聞く。
- 一回で聞き取る（集中して）。
- 聞いて、指示通り行動する。
- 聴写する。

A′ 聴く（聴解力）
- 要点をとらえる（メモをとる）。
- 話の大意・要旨をとらえる（メモをまとめて文に）。
- 話を聞いて感想をもつ。
- メモすること、メモの方法・メモからのまとめ方などを身につける。
- 曖昧なところやわからないことを質問する。

B 話す
- 返事をする。
- 伝えたいことを正確に話す。
- まとまりをつけ、事柄ごとに区切って話す（一文でだらだら言わない）。
- メモをもとに話す。
- 問いに答える。
- パブリックな話し方（敬体）で話す。
- 声の大きさ・話す速さ・姿勢。

C 話す・聞く（コミュニケーション）
- ペア、または四人のグループでの話し合いの仕方を身につける。
- 司会、記録（報告を兼ねる）の仕方を知り、身につける。
- 話し合いの筋道をとらえる。

D 書く
- 一時間に書ける量。
- 漢字使用率（二五％が良）。
- 正しい表記（句読点、「」、―、は・を・への使用、カタカナ、ローマ字、年号の表し方など）。
- 二百字で自分の考えを述べる。
- 原稿用紙の使い方。

E 読む
- だまって最後まで読む。
- 一回で読む。
- 文学作品の情景・人物・場面・心理・関係などをとらえる。
- 説明的・論理的文章の事柄・関係・論理をとらえる。
- 大意・要旨をとらえる。
- 文語文を読む・朗唱・暗唱する。
- 読書の傾向・態度。

F その他
- 国語辞典を使う習慣がある。
- 事典・年鑑を用いる。
- ＩＴ・ＩＣＴ活用の学習経験（インターネット使用、パソコン使用、スタディノートの使用、プロジェクタ、パワーポイントの活用、情報モラルの学習など）の有無・身についている度合い。

※ＩＣＴ＝ Information & Communication Technology

「授業開き」単元では、こうした学力診断と学習訓練が可能な言語活動を設け、キッド・ウォッチングを行うようにしましょう。

（元岐阜大学教授）

〈参考〉
○『授業開きの構造』安居總子著（光村図書）
○『ＩＣＴですすむ授業改善』長野市教育の情報化推進共同研究会編著（高陵社書店）

光村「国語デジタル教 科書」中学校版のご紹介

教科学習におけるデジタル教材の活用

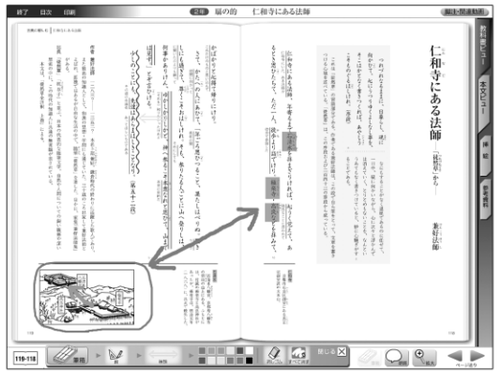
近年、学校の情報機器整備の流れを受け、教科学習においてデジタル教材を活用した授業が行われるようになってきました。よりわかりやすく共感できる授業の構築を目指すために、黒板と教科書に加えてどういうメディアが活用できるのかが模索されています。すでに小学校では導入・活用が進みつつあり、中学校でも導入を望む声が多く聞かれています。

そのような中で開発されたのが光村「国語デジタル教科書」です。教科書紙面や動画などの資料を、パソコンとプロジェクタ等を通して拡大提示できる指導用のソフトウェアで、「話す・聞く」編と古典編の二つをご用意しました。ここでは、デジタル教科書の主な特長と使い方をご紹介します。

教科書を忠実に再現〜学習情報を共有する

生徒の手元には教科書があり、その中の文章を読んで、話し合いや言語活動が進んでいきます。その際、教師の指示や生徒同士の意見交流は、声の情報として伝わります。どの部分を言ったのか、どこを読んでの発言なのか、といった情報の共有は、教科書という媒体を中心に伝わるものとして考えられてきました。さて、実際の教室ではどうでしょうか。学習課題を設定するとき、話し合い活動のポイントを確認するとき、教師の指示は全員に的確に伝わっているのでしょうか。

国語デジタル教科書は、全員で二つの教科書画面を見ながら学習を進めるために開発されました。前述のような場合に、拡大した教科書画面に線を引いたり書き込みをしたりしながら、学習情報を声（音声）と視覚の二つの方法で伝えることができるので、よりわかりやすい授業が展開できるのです。



▲ 教科書画面に書き込みする

▲ 注目したい箇所を拡大する

大事なポイントを拡大する

デジタル教科書では、本文や挿絵だけをそれぞれ拡大投影することができます。本当に大事なポイントを説明したり、本文の内容を挿絵で確かめたりするときには、生徒の視線を集中させることが大切です。手元の教科書よりも、拡大投影された紙面を見ることで、生徒の意識は集中していきます。

朗読などの音声情報を使う

デジタル教科書では、音声の情報を搭載しています。古典編の朗読機能は鑑賞だけでなく、聞かせたいところから自在に朗読を流すことができるので、暗唱の練習など部分的に読む場合にも適しています。

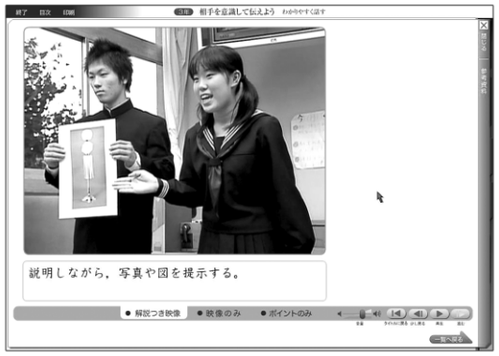
また、「話す・聞く」編にある「聞き取りトレーニング」は、音声教材から聞き取ったことを、収録されているワークシートに書き取る活動を想定して作成しました。

教材に即した映像や資料を提供

教科書の「話す・聞く」教材は、活動場面の例をト書きの形で掲載しています。話し合いの場面などは、その文章を読んでイメージしなければならず、教科書だけでは声の大きさや発言者の表情などの情報は伝わってきません。

古典教材では、時代や場所の情報が多く掲載されていますが、作品の理解をより深めるためには、背景にある知識や映像をさらに多く提供してほしいという声が寄せられています。

デジタル教科書では、これらの要望に対応した映像や資料を豊富に提供しています。しかも、教科書と連動したコンテンツですので、授業の中ですぐに活用することができます。



▲ 活動のポイントを映像からつかむ

▲ 古典作品の背景を映像で理解する

【「話す・聞く」編・収録教材】

1年
- 発見したことを伝えよう—スピーチの会を開く
- 話し合って考えよう—グループ・ディスカッション
- 言葉を探検する—調べたことを発表する

2年
- 「聞く生活」を考えよう—目的に応じて聞く
- 提案のしかたを工夫しよう—プレゼンテーション
- 小さな「物語」を探る—インタビューで取材する

3年
- 相手を意識して伝えよう—わかりやすく話す
- 話し合って考えを深めよう—パネル・ディスカッション

【古典編・収録教材】

1年
- 音読を楽しもう　いろは歌
- 蓬萊の玉の枝—「竹取物語」から—
- 今に生きる言葉

2年
- 音読を楽しもう　枕草子
- 扇の的—「平家物語」から—
- 仁和寺にある法師—「徒然草」から—
- 漢詩の風景

3年
- 音読を楽しもう　古今和歌集　仮名序
- 君待つと—万葉・古今・新古今—
- 夏草—「おくのほそ道」から—
- 学びて時にこれを習ふ—「論語」から—

※本製品の詳細は、光村図書ホームページをご覧ください。

連載　新しい書写実践の試み ①

日常化を目ざした行書の実践

新しい指導を考える会

1　実践の趣旨

手で文字を書くことの伝達性について考えてみる。活字が溢れる現代の生活では、そうでなかった頃と比べてみると、手書きの文字の役割が形式的かつ視覚的な部分から、思いや感情のような内面を伝えるという中心的な部分に、より力を発揮するようになっていると考えられる。一人の人が書く文字は唯一のものであることに価値があり、活字のように同じ文字を限りなく書くことはできない。そこに活字とは違う働きを見いだすことができるからである。

また、書くことによって人は思考し、記憶もしていることから、学習者にとって書くという行為は、学習を成立させるための一つの練習方法であるとも言える。中学生にとって、文字を書く機会は多くあり、文字を書くことが好きであると答える生徒もいる。しかし、その反面、文字を書くことが面倒であるとか、上手に書けないから書かない、といった「書くこと嫌い」が多いという現状も見逃すことができない事実である。九年間の義務教育が終わる中学生の時期に、手で書く文字によって、心を伝えることの価値を体験させ、手で書いた文字について考える機会を与えることの重要性を痛感している。文字を書くことについて自分なりの考えをもち、手で書くことによって自己の日常の生活を向上させようとする意識も高まることを期待したい。

今回の実践は、年賀状を書くことを目的とし、学習事項の日常化をねらったものである。行書学習は中学校の国語科書写のメインともいうべき学習事項である。生徒の興味関心は高い反面、日常で毛筆を使うことがないという意味で、生徒にとっては難しいという感想が多く、そのハードルが高くなって、最後は、やっぱりうまく書けない…… と終わることが多い。当然、日常的に行書を使ってみようと思う生徒は少ない。

そこで、今回は、行書の技能を得ることを目的とせず、学習事項を生かして手書きの年賀状を送り、手書きの効果について考えることをねらって授業を組んだ。手で書いて伝えることの価値が体得できれば、日常の中で、学習事項を生かそうとする生徒も、きっと多くなるはずである。

2　授業の実際

行書で年賀状を書こう

〈目標〉行書の特徴を生かして年賀状を書く。
書写学習の要素（行書の特徴）
A　点画が丸みを帯びることがある。
B　点画の方向や形が変化する。
C　点画が連続することがある。
D　点画が省略されることがある。
E　筆順が変化することがある。

〈指導計画〉（全2時間）
第一時……楷書と行書を比べて行書の特徴を確認する。
・行書と楷書の違いについて学ぶ。
・行書の点画の連続と省略、筆順の変化について学ぶ。
第二時……手紙について学習し、相手に失礼のない手紙を書くための意識を高める。
・年賀状について知る。
・はがきの書き方について知る。
・行書の特徴を生かして年賀状を書く。

▲ 第一時で使用したワークシート

3　授業を終えて――「振り返りカード」による自己評価

授業を終えた後、全員に「振り返りカード」を配り、生徒自身が学習の成果を確認できるようにした。項目として、次表（P32参照）の六つを掲げた。

「できた」「どちらとも言えない」「できなかった」の欄には、丸をつけさせるだけではなく、理由や感想も記入させるようにした。

生徒は、それぞれ率直な感想を述べており、ここでの学習の自己評価にとどまらず、次からの学習内容に向けた自身の目標を感じるものも少なくなかった。

項目	できた	どちらとも言えない	できない
楷書で書くよりも速くなりましたか。			
点画が丸みを帯びたものになりましたか。			
点画の方向や形が変化しましたか。			
点画の連続がうまくいきましたか。			
省略した部分の点画を意識して書けましたか。			
楷書とは違う筆順を覚えることができましたか。			

▲振り返りカード

〈生徒の感想例〉

○手書き（毛筆）の年賀状について感想を述べたもの

・年賀状を筆で書くのはとても疲れてえらい（大変だ）。でも、見た目もいいし、何より、気持ちが伝わるのがいい。

・目上の人にすべて筆で年賀状を書くのは初めてだったので、とても緊張したが、相手の人が喜んでもらえると嬉しいです。

○行書の特徴について感想を述べたもの

・筆で行書を書くのは難しい。

・前より速く書けるようになった。

・行書と楷書が混じってしまった。

・いつも使っている楷書とは違って、行書はとても難しいと思った。さらに、筆は、先が柔らかいし、墨の具合によって左右されやすくて、とても大変だった。日本人として、墨や筆を使いこなせるようにしたい。

・行書は難しいので、やはり楷書がいいと思った。

・行書で書けていないところがあった。

・楷書になってしまったところがあった。

・いつも楷書なので難しかった。

○見栄えについて述べたもの

・字のバランスが悪かった（曲がってしまった）。

・さみしい年賀状の感じがする。

・筆が思うように進まなくて、あまり上手に書けなかった。たぶん真剣になりすぎて、姿勢が良くなかったんだと思う。

○その他

・まあ、うまく書けたと思う。

・筆で年賀状を書くことがなかったから、いい体験になった。

・練習よりうまくいってよかった。

・書写のように筆などを使うと、まだ上手に書けませんが、こういう経験をしていれば、多少は上手になっていくと思いました。

・時間がなく、字の大きさがバラバラになってしまった。初めてだったけど、それなりにできたと思います。

・時間がなくて自分で納得のいく字が書けなかった。でも、やっぱり筆で字を書くのは、楽しいです。

・筆が苦手なので、ボールペンで書いた。

・とても、難しくて大変だった。でも、おもしろかった。

・ずれたり、ミスが多かった。

・葉書が汚れてしまった。

4　成果と課題

今回は、書き文字の日常化をねらって、生徒が手書きで書くことの多い手紙（年賀状）を取り上げ、行書の学習と併せて実践した。

授業後の自己評価からは、「見た目もいいし、何より、気持ちが伝わるのがいい。」「とても緊張したが、相手の人が喜んでもらえると嬉しいです。」「日本人として、墨や筆を使いこなせるようにしたい。」などと、手書きの効果についての意識が高まった感想が書かれていたのは、一つの成果である。また、いつもは、年賀状は印刷して出すという生徒がほとんどで、出さないという生徒も見られるなか、筆書きの年賀状は相当緊張して書くことができたようだ。一つの経験を与えたという点で、今後の生活で書き文字について考える機会になったと考えている。

それに反して、行書を書くことの難しさが、自己評価のさまざまな場面でうかがうことができたことは、課題と言える。日常生活の中に筆書きすることがほとんどなくなった今、行書のイメージが「難しい」になってしまうことが残念である。そんな生徒のノートの文字は、速書きによって、自然と点画が連続していたりするのである。速書きでも文字を整えることができるようにするために、日常で使う行書の文字を学習する工夫が必要であることを強く感じている。

◇　◇　◇　◇　◇

中学校の書写の時間は限られています。だからこそ効率の良い授業が求められます。そして書写力の日常化をもめざさなくてはなりません。ただ、手紙や色紙を書かせるだけでは、書式に触れることはできても、日頃の学習成果を生かすことにはつながりにくいと考えます。基礎・基本の学習を日常化するにはどうすればよいか、教師にとって大きな課題と言えるでしょう。（M）

連載　書写が目ざすもの⑯

行書のQ&A　その6

山梨大学教授　宮澤（みやざわ）　正明（まさあき）

前号に続いて、「どのような指導をしたら、速書きとしての行書を日常に生かすことができるでしょうか。」の問いにお答えします。

前回は、行書に親しむ学習を通しながら日常化を目ざす方法や工夫について述べました。今回は、日常生活でよく使われる文字を実際に書くことで行書の日常化を図る方法について考えてみましょう。

日常生活でよく書く文字や言葉には、次のものがあります。

・氏名
・住所
・学校名
・都道府県名
・手紙・はがきなどに用いられる慣用句

これらは社会生活はもとより、中学校生活でも書く機会が多いものです。特に自分の氏名は、生涯を通じて様々な場面で数え切れないほど書くことになります。にもかかわらず、この最も身近な氏名の書き方を学校教育で取り立てて指導することは意外に少ないのではないでしょうか。実際には、就学前や就学直後では平仮名で表記することが多く、正式な氏名の表記や書き方を一人一人丁寧に指導することはあまり行われていないように感じます。漢字を漸次学習する途上で、保護者から手ほどきを受けたり、見よう見まねで覚えていったりすることが実態なのではないかと推測されます。児童・生徒の氏名の書き方に不適切な書き方が散見されるのは、氏名の書き方を組織的に指導されてこなかったことによるものと思われます。

生徒にとって、自分の持ち物、提出物、テストなどへの記名は一日でも何回となく行われています。しかし、既に書き慣れて自己流に走り始めた生徒もいることでしょう。自分の名前をTPOに応じて書く力、特に正確な行書で速く書けるようにしておくことは、責任ある社会人として自信と誇りを持つことにもつながります。義務教育を終了する前に、氏名の書き方をしっかり確認する機会を保障してあげたいものです。

そこで、行書の基礎を学んだ後に、行書の特徴を一つずつ段階的に確認しながら自分の氏名を書く試みを次に示します。

○行書で自分の氏名を格好良くすらすら書いてみよう。

これまで、行書の基礎を毛筆で大きく書いて学習してきました。今度は、自分の氏名を毛筆で大きく書いてみます。手本はありません。行書の学習を想起しながら書くのです。画数が少ない氏名や平仮名の場合（行書に調和した平仮名にする）もあるでしょうが、難易度の問題ではありません。完成度一〇〇％を目ざして自分の氏名を磨き上げるのです。毛筆で学習した後は、硬筆で速く書く学習です。さあ始めましょう。

〈手順〉レベル1～3は毛筆　レベル4は筆ペンや硬筆

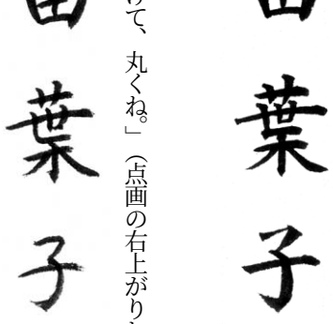
①レベル1　点画の右上がりと丸み
行書の特徴の第一段階です。横画をやや右上がりに、横画・縦画・折れなどにやや丸みをつけてみよう。

②レベル2　点画の連続と変化
行書の特徴の第二段階です。点画に連続性をつけてみよう。縦画や右払いの終筆を変化させてみよう。

③レベル3　点画の省略・筆順の変化など
行書の特徴の第三段階です。点画の省略できる漢字があったら省略形に直してみよう（糸偏、木偏、列火など）。筆順の変化ができる漢字は、変化させてみよう。

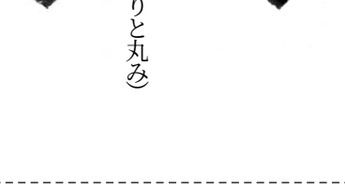
④レベル4　速く書く
毛筆で学習したことを筆ペンや硬筆に生かしてみよう。筆箱に入っている様々な筆記具を用いて書いてみよう。

基準となる楷書

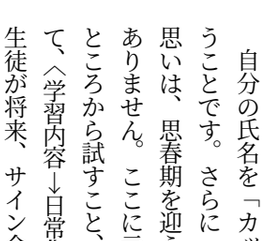


練習例

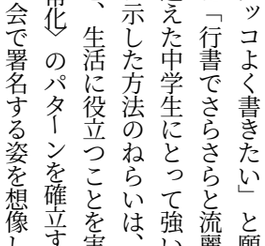
①レベル1　「上げて、丸くね。」（点画の右上がりと丸み）



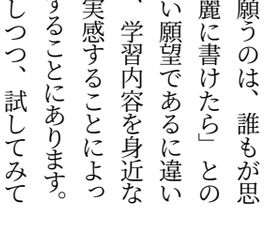
②レベル2　「つなげて、変えてね。」（点画の連続と変化）



③レベル3　「省いちゃおう。」（点画の省略・筆順の変化）



④レベル4　「将来のサイン会に備えて。」（完成・速く書く）



自分の氏名を「カッコよく書きたい」と願うのは、誰もが思うことです。さらに「行書でさらさらと流麗に書けたら」との思いは、思春期を迎えた中学生にとって強い願望であるに違いありません。ここに示した方法のねらいは、学習内容を身近なところから試すこと、生活に役立つことを実感することによって、〈学習内容→日常化〉のパターンを確立することにあります。生徒が将来、サイン会で署名する姿を想像しつつ、試してみてください。

※平成18年度版中学校「国語」漢字指導移行資料は巻末（38ページ）からご覧ください。

表1-2　新版を2年用から使い始める場合

新出漢字	初出学年		指導箇所			用例
	14光	18光	学年	ページ	行	
殊	3	1	3	131	脚注	文殊菩薩（特殊）
秀	2	1	2	117	出典	中山義秀（優秀）
銃	3	1				（銃口）
巡	2	1	2	159	18	巡邏
循	3	1	3	137	下14	悪循環
衝	2	1				（衝突）
償	2	1	2	238	下1	無償
浄	2	1	2	225	下14	人形浄瑠璃
縄	3	1	2	73	上11	縄跳び
伸	2	1	2	29	上9	伸びた
辛	2	1	2	182	上10	辛い
津	2	1	2	121	新出漢字	津々浦々
振	2	1	2	30	5	振り返り
畝	3	1	3	119	脚注	畝傍山（五畝）
井	3	1	2	24	12	安井寿磨子（井戸）
請	2	1	2	46	下22	申請
践	2	1	2	219	図中	実践
遷	3	1	2	244	参考	平城京遷都
鮮	2	1	2	18	13	新鮮
贈	2	1	2	29	下5	贈る
即	2	1	2	17	12	即座
袋	2	1	2	61	下3	ごみ袋
滞	2	1	3	119	脚注	行き滞り
滝	2	1				（滝つぼ）
択	3	1	2	32	1	取捨選択
沢	2	1	2	13		中沢けい（光沢）
丹	2	1	2	243	上10	丹（丹念）
恥	2	1	2	64	下19	恥ずかしそうな
眺	2	1	2	24	10	眺めている
跳	2	1	2	73	上11	縄跳び
呈	2	1				（進呈）

新出漢字	初出学年		指導箇所			用例
	14光	18光	学年	ページ	行	
摘	2	1	2	85	9	摘みながら
透	2	1	2	80	16	不透明
塔	2	1	2	146	2	五重の塔
踏	2	1	2	162	9	じだんだ踏んだ
峠	2	1	2	117	地図	倶利伽羅峠（峠道）
鈍	2	1				（鈍感）
軟	2	1	2	132	5	軟らかい
悩	2	1	2	226	中23	悩みはイバラのようにふりそそぐ（苦悩）
廃	2	1	2	46	下17	荒廃
迫	2	1	2	52	パンフレット例	迫る
鉢	2	1	2	107	脚注	丸火鉢
描	2	1	2	26	2	情景描写
猫	2	1	2	52	パンフレット例	吾輩は猫である（子猫）
紛	2	1	2	236	上11	紛争
癖	3	1	2	80	6	癖があった
俸	3	1				（年俸）
峰	2	1	2	44	新出漢字	霊峰
魔	2	1	2	170	1	悪魔
猛	2	1	2	26	新出漢字	猛獣
愉	2	1	2	17	20	不愉快
悠	2	1	2	123	3	悠然
羅	3	1	2	111	上3	沙羅双樹
絡	2	1	2	32	お知らせの例	連絡先
酪	3	1	2	154	中12	酪農家
履	2	1	2	177	整理した例	履き始めて
慮	2	1	2	49	18	配慮
糧	2	1	2	92	脚注	食糧難
烈	3	1	3	179	15	強烈
郎	2	1	2	13		谷川俊太郎（新郎）
惑	2	1	2	49	18	迷惑

表2　新版を3年用から使い始める場合

新出漢字	初出学年		指導箇所			用例
	14光	18光	学年	ページ	行	
亜	3	1				（亜鉛）
維	3	2	3	224	注	繊維
詠	3	2	3	115	上10	詠まない（詠嘆）
凹	3	2	3	225	上10	凹凸
憶	3	1	3	18	13	記憶
岳	3	1	3	128	地図	那須岳（山岳）
喝	3	2	3	192	上8	喝（一喝）
閑	3	2	3	33	下12	閑（閑散）
企	3	1	3	41	脚注	企業
偽	3	2	3	28	著書	偽原始人（偽装）
朽	3	1	3	131	上5	朽ちて
窮	3	1	3	138	下2	窮地
菌	3	1				（イースト菌）
顕	3	1	3	138	上14	顕著
幻	3	1	3	188	著書	幻・方法（幻想）
坑	3	1				（坑道）
肯	3	2	3	54	5	肯定的
貢	3	1	3	88	14	年貢（貢献）
酵	3	1				（酵母）
剛	3	2				（金剛）
佐	3	2	3	78	中	佐藤多佳子（補佐）
唆	3	2				（示唆）
遮	3	1	3	227	上2	遮り
殊	3	1	3	152	下8	特殊性
珠	3	2	3	94	15	数珠（珠玉）
銃	3	1				（銃口）
獣	3	2				（猛獣）
循	3	1	3	137	下14	悪循環
掌	3	2				（掌握）
焦	3	2	3	14	9	胸を焦がす
鐘	3	2	3	64	下6	入相の鐘

新出漢字	初出学年		指導箇所			用例
	14光	18光	学年	ページ	行	
縄	3	1	3	89	14	縄を引っ張る
髄	3	2	3	33	上17	真髄
畝	3	1	3	119	脚注	畝傍山（五畝）
井	3	1	3	13		井上ひさし（井戸）
遷	3	1	3	229	上3	司馬遷（遷都）
胎	3	2				（胎児）
択	3	1	3	37	学習の窓	取捨選択
脹	3	2	3	231	下14	血脹れ（膨脹）
泥	3	2	3	21	1	泥だらけ
唐	3	2	3	121	作者	遣唐使（唐突）
搬	3	2				（搬入）
扉	3	2	3	131	4	珠の扉
幅	3	2	3	41	8	幅広く
癖	3	1	3	21	13	癖だった
俸	3	1				（年俸）
盆	3	2				（盆地）
魅	3	2	3	150	テーマ例	魅力的
融	3	2	3	159	下11	融資
擁	3	2				（擁護）
羅	3	1	3	138	下1	網羅
酪	3	1				（酪農）
濫	3	2	3	33	下11	濫（濫読）
柳	3	2	3	123	14	柳かげ
竜	3	2	3	78	上12	竜夫（恐竜）
了	3	2	3	199	1	完了
僚	3	2				（同僚）
倫	3	2				（倫理）
霊	3	2	3	115	上12	精霊
齢	3	2	3	93	2	年齢
烈	3	1	3	179	15	強烈
炉	3	2	3	97	6	香炉

編集後記

さる二月十三日、中央教育審議会の教育課程部会から審議経過報告が出されました。新聞各紙にもその一部が報道されましたが、「国語力の育成」について、多くのことが議論されているようです。国語科の充実をめぐって、さらに議論の輪が広がることは間違いありません。

今回の特集では、四月からお使いいただく新版教科書の解説と合わせて、小学校六年間に経験した国語学習についてQ&A形式でご紹介しました。このほかにも、直接子どもたちとの交流に活用できるページや、言葉を話題にしたエッセイ、書写学習のヒントなど、大きく内容を一新しました。どれも、先生方からの声を受けて企画・実現したものばかりです。

次号からも、より多くの先生方のご要望に応えられる「国語教育相談室」でありたいと思います。巻末のアンケート用紙やホームページへの書き込みを通して、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。

弊社ホームページ「光村チャンネル」も、今年四月から大きく生まれ変わりました。教科を超えた教育情報を毎月お知らせする「光村トピックス」や、子どもたちの読書を応援するページ「光村ブックランド」など、新しい内容が満載です。ぜひ、こちらも覗いてください。

絶賛発売中!

平成18～21年度版　中学校国語教科書準拠　指導用ソフトウェア

光村 国語デジタル教科書 中学校版

もっと、国語が好きになる。

光村「国語デジタル教科書」は、プロジェクタなどを使って教科書を拡大提示するために開発された、指導用ソフトウェアです。

価格

「話す・聞く」編（1～3年収録）　学校フリーライセンス　税込 52,500円

古典編（1～3年収録）　学校フリーライセンス　税込 52,500円

ただいま体験版配布中!

※「学校フリーライセンス」とは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。

光村図書出版株式会社
www.mitsumura-tosho.co.jp
〒141-8675　東京都品川区上大崎2-19-9
TEL.03-3493-5741（デジタル教科書お客様窓口）　FAX.03-3493-5483
E-mail:digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

平成18年度版中学校「国語」
漢字指導移行資料

この資料は、弊社「国語」教科書が平成14年度版から平成18年度版へと継続使用される学校において、漢字指導が円滑に行われることを願って作成したものです。

4月から使用される平成18年度版「国語」（以下「新版」）の「新出漢字」は、教材の改訂に伴い、平成14年度版「国語」（以下「旧版」）の提出学年と多少異なります。御指導の際には、次の点に御配慮をお願いいたします。

（1）次表は、改訂により「新出漢字」として学習する機会がなくなる漢字について、新たに指導していただく箇所を示したものです。表1・表2に基づいて、適宜御指導ください。

表1　新版を2年用から使い始める場合

①旧版2年から新版1年へ、②旧版3年から新版1年へ、新出箇所が移動したもの。

表2　新版を3年用から使い始める場合

②旧版3年から新版1年へ、③旧版3年から新版2年へ、新出箇所が移動したもの。

（例えば、「憶」は旧版3年から新版1年に新出箇所が移動した漢字ですので、2年178ページ5行目「記憶」のところで新出漢字として説明を加えてください。）

（注）（　　）を付けた用例は、以下の場合について用例を補ったものです。

○下学年に既に提出され、以後教科書中に用例がない場合。この場合は、適当な機会に取り立てて指導を行ってください。
○用例が語として提出されていない場合。
○用例が固有名詞の場合。
○用例が高音訓の場合。

（2）前の（1）とは逆に、旧版1年から新版2年・3年へと学年を繰り上げて提出した漢字は、新版2年・3年用教科書で「新出漢字」として扱われています。その場合は、重ねて指導することになりますので、あらかじめそのことを生徒に知らせておいてから御指導ください。

表1-1　新版を2年用から使い始める場合

新出漢字	初出学年		指導箇所			用例
	14光	18光	学年	ページ	行	
亜	3	1	2	38	脚注	亜熱帯
憶	3	1	2	178	5	記憶
暇	2	1	2	74	メモ例	休暇
怪	2	1	2	158	12	怪しく思った
獲	2	1	2	188	文章例	獲得
岳	3	1	2	226	上18	岳物語（山岳）
刈	2	1				（草刈り）
汗	2	1	2	66	下15	脂汗
陥	2	1	3	65	上5	陥った
敢	2	1	3	36	上1	勇敢
企	3	1	2	48	学習の見通しをもとう	企画
軌	2	1	3	79	中12	軌跡
鬼	2	1	2	226	上16	鬼の橋（鬼才）
棄	2	1	2	134	4	放棄
戯	2	1	2	197	著書	戯曲集
朽	3	1	2	154	上	不朽の名作
窮	3	1	3	138	下2	窮地
虚	2	1	2	115	上4	虚空（虚像）
御	2	1	2	52	パンフレット例	御案内
狭	2	1	2	47	上3	偏狭（狭い部屋）

新出漢字	初出学年		指導箇所			用例
	14光	18光	学年	ページ	行	
菌	3	1	2	22	14	溶連菌感染症
愚	2	1	3	235	上1	愚痴
屈	2	1	2	56	7	理屈
掲	2	1	2	47	上20	掲示
傑	2	1	3	237	16	傑出
肩	2	1	2	19	13	肩をすくめた
顕	3	1	2	133	キャプション	顕微鏡
懸	2	1	2	73	上5	命を懸けて
幻	3	1	3	188	著書	幻・方法（幻想）
坑	3	1				（坑道）
貢	3	1	3	88	14	年貢（貢献）
酵	3	1				（酵母）
購	2	1				（購入）
魂	2	1	3	99	13	魂をすり減らす
斎	2	1	2	73	上	斎藤隆介（斎場）
剤	2	1	2	37	脚注	洗剤
錯	2	1	3	160	下15	試行錯誤
撮	2	1	2	37	キャプション	筆者撮影
紫	2	1	2	55	脚注	薄紫
遮	3	1	2	157		遮った所

一人ひとりに確かな学力を。

構成をフルモデルチェンジ。
教科書編集委員と一緒に作った完全準拠ワーク。

光村の国語のワーク

1・2・3年 各1冊 全3冊　定価 各620円（税込）

全設問にヒントをつけ，ヒントによって解く力を育て，充実した特集資料ページが興味・関心を引き出します。付録のCD-ROMには聞き取り問題や「話す・聞く」「書く」活動がらくらく実践できるワークシート，確認テスト，漢字テストなど，授業で使える教材を収録。

B5判　128ページ　4色刷り
教師用書あり・別冊解答書つき　教師用にCD-ROMつき

イラストでより分かりやすく。

文法練習ノート

1・2・3年 各1冊 全3冊　定価 各380円（税込）

教科書教材に即して段階的に文法学習ができる好評の問題集をカラー化。内容を精選し，負担なく学習できます。

B5判　40ページ　4色刷り　教師用書あり・別冊解答書つき

教科書完全準拠で唯一の
硬筆練習帳。

中学 硬筆練習帳

1年 2・3年 全2冊　定価 各350円（税込）

教科書の手本文字をそのまま使用した唯一の練習帳です。手本をなぞって書く直写用薄紙を収載。

B5判　24ページ
2色刷り
直写用薄紙2枚入り

大判化で，より書き込みやすく。

中学 漢字の学習

1・2・3年 各1冊 全3冊　定価 各350円（税込）

教科書の提出順に，漢字の読み書きを見開きページで対照しながら練習できる問題集です。大判化で書き込みやすくしました。

B5判　64ページ　2色刷り

漢字も語句もこのノートで。

漢字・語句学習ノート

1・2・3年 各1冊 全3冊　定価 各380円（税込）

新出漢字と重要語句の学習が一冊でできます。直接書き込んで繰り返し練習できる，ノート形式の学習帳です。

B5判　64ページ
2色刷り　別冊解答書つき

漢字を覚えるシステムが身につく。

あかねこ中学漢字スキル

1・2・3年 各1冊 全3冊　定価 各420円（税込）

中学校漢字教材では画期的な十分解の筆順表示。練習とテストの繰り返しで習得効果抜群です。

B5判　96ページ
2色刷り　シールつき

光村教育図書株式会社　お問い合わせ先　TEL.03-3779-0581
http://www.mitsumura-kyouiku.co.jp/

キリトリ線

アンケートのお願い

みなさんのお声を、今後の広報誌編集の参考にさせていただきたいと思います。
下記アンケートにご記入のうえ、弊社広報部までお寄せください。

Q1　今号でおもしろかった記事、役に立った記事はなんですか。

Q2　国語教育全般の中で、今ご関心のある話題や人物があれば、お聞かせください。

Q3　「国語教育相談室」に対するご意見・ご要望があれば、お聞かせください。

●差し支えのない範囲でお答えください。

性別　□ 男性　□ 女性　**年齢**　（　　）歳

勤務先　□ 小学校　□ 中学校　□ 教育委員会　□ その他（　　）

●「国語教育相談室」の個人宛送付とメールマガジン配信をご希望の方は、送付先をご記入ください。
次号より送付いたします。（無料）

□「国語教育相談室」送付希望　（□ 小学校版　□ 中学校版）

お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご住所：〒＿＿＿-＿＿＿＿　＿＿＿＿＿＿＿＿

□ メールマガジン配信希望　　メールアドレス：＿＿＿＿＿＿＿＿

ご協力ありがとうございました。

［送付先］光村図書出版株式会社　広報部　**FAX：03-3493-5483**

2006/4/C49

※弊社ホームページ「光村チャンネル」http://www.mitsumura-tosho.co.jp/「教科通信」のコーナーからも、アンケートにお答えいただけます。
※お預かりしました個人情報については、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切に管理・保護いたします。